

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200132		
法人名	株式会社 葵		
事業所名	あおい介護センター		
所在地	和歌山県田辺市下屋敷町1-78		
自己評価作成日	平成24年9月3日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成24年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は市街地に立地しています。近辺には、市民会館やスーパー、消防署や病院などの医療機関も多くあり社会資源に恵まれています。駅前商店街のあおい通りに位置して徒歩2～3分程度のところには古い歴史のある闘鶏神社も近くにあり、お祭りや花見、その他のイベント行事に多数参加しています。入所されている利用者さんにとって地域社会での生活を実感できる事業所になります。また事業所での取り組み、活動などをまとめたケア報告書やGH(グループホーム)新聞を発行し、家族さん、外部の方への報告や情報発信を行なっています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心地で駅前商店街の中にあり、生活環境が整っている。同じビルに併設されている2階の小規模多機能型居宅介護と1階にデイサービスに続いて5階に開設され2年目に入っている。地域との交流には法人全体で取り組んできており、地域住民も参加できるイベントも開催されている。個々の入居者に対しては担当の職員を中心に丁寧に関わりをもつよう努めている。家族に毎月「ケア報告書」と「グループホーム通信」を送り、家族の安心にも配慮し信頼関係を築いている。入居前のかかりつけ医との関係を大切に、本人・家族の意向による受診支援を行い、かかりつけ医と連携して医療面の不安軽減に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 気持ちに向き合い寄り添う2. その人らしいあり方を大切にする3. 切れ目なく望む暮らしを支えるを理念として月一回のサービス担当者会議で理念に沿ったサービスが行えるよう話し合っている。	法人全体の理念を基に、個々の入居者の暮らしを支えるサービスの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	駅前商店街に立地しており、地域のイベントや行事も多く日常的に参加している。事業所周辺で買い物など行い地域との交流を図っている。	5階に位置するため孤立しやすいが、商店街のなかに立地し、買い物や地域の催しを通して周辺地域との接点を持つ機会に恵まれている。法人の催すイベントはポスター等で案内しており、近隣住民の参加もみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々からの問い合わせや、支援の相談には、随時対応している。見学も受付順に行い、認知症の説明も行い、理解や支援の方法などアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に事業所での取り組み(レクリエーションや業務内容)や外部評価事項について話し合いを持っている。会議を通して区の情報を頂き、レクリエーション活動としてイベントへの参加や協同活動を行なっている。	併設の小規模多機能型サービスと合同で開催している。家族や地域住民、市町村関係者ら外部からの参加が得られにくく、法人職員のみで行い、商店街の役員である法人代表者から地域の情報を得ている。	形式にとらわれず、多方面からの意見が得られる場の持ち方を工夫し、運営に活用できることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話で入居についての問い合わせを受けた際など、事業所の現状を伝えている。介護認定も事業所内で行っており、市の担当者にケアサービスの取り組みも伝えている。	介護認定、認定更新の際など、市の担当者や会う機会があるごとに入居者の暮らしぶりを伝え、毎月発行しているグループホーム通信も渡して協力関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は入社時の研修で、身体拘束について学んでおり、拘束しないケアを実践している。雑居ビルの5Fに位置し、玄関を出るとエレベーターで直接、車や人通りが多い表通りに面しているため、玄関は施錠管理している。	入居者の行動を制限するような言葉かけにも気をつけている。開設当初は出入り口の鍵をかけていなかったが、職員が気づかない間に入居者が外に出てしまったことがあり、今は安全のために施錠している。	鍵を掛けることの弊害や入居者の気持ちを考え、今一度、職員間で話し合い、できることから取り組んでほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修を受けており、理解できている。		

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は指定の研修で学んだ事を、スタッフ会議で伝え必要性など話し合っているが、制度を活用する利用者は現状いない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行っている。不安や疑問なども必ず確認し、その場で理解や納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会は特に定めていないが、家族が利用者の支払いや面会などの訪問時には、職員や管理者は家族等の意見、要望を聞き取り、運営の反映に務めている。	「グループホーム通信」や「ケア報告書」を毎月送付して事業所での様子を家族に知らせ、訪問時に意見・要望が出るような問いかけをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のサービス担当者会議を開き、利用者の個別処遇や運営に関する職員の意見や提案を出し合い、それらを運営に反映させている。	サービス担当者会議は全員参加で、その際に意見・要望が出されることもある。会議では日ごろから聞いていた内容についても議題に取り上げて、運営に反映できるよう検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議、フロア会議を月1回を開催し状況把握やモチベーションアップに努めている。常に現場に出向き、職員とのコミュニケーションを図っている。また介護員養成研修実習施設として実習生を受け入れ、職員個々に教育指導を担当してもらい向上心を持って働く環境づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に適した研修の促しや、必要時に事業所内での勉強会を行っている。管理者会議・フロア会議での決定事項を反映するように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加した際、同業者との交流もあり、その時に意見交換もしている。		

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面接の段階で本人にサービスに対する要望を聞き、導入している。導入後も、要望や相談を受け安心を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接の段階で家族にサービスに対する要望を聞き、導入している。導入後も、要望を相談を受け、関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの要望や困っていることを十分聞いた上で、「その時」必要なサービスや支援を見極め、他のサービスが必要な時は紹介なども行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴や生い立ちを知った上で、共に家事をしたり外出も行き、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に変わった事や気になる事があれば家族に連絡し、本人の状態など報告している。また月末には、一ヶ月の支援の経過を文章『ケア報告書』で送付し報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会も多く、よく外出されている。家族との外出も多く、墓参りや買い物もスタッフが付き添って支援している。	入居前の習慣が継続できるように配慮し、墓参り等個別の支援も行っている。訪問しやすい雰囲気配慮しており、家族や知人の訪問の際、一緒に喫茶店にお茶を飲みに行くなどしている様子もみられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との交流などを観察し、利用者同士の関係の把握に努めている。ひとり一人が孤立しないよう、利用者同士で行うおやつ作りなど、関わり合えるよう支援している。		

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された家族への訪問や、必要に応じて相談を受けている。また永眠された利用者様においては、初盆にお参りをさせて頂き家族の様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決め日常生活の支援の中で、本人の希望や意向の把握に努めている。把握が困難な利用者については、本人の視点に立って意見を出し合っている。	個々の入居者に担当職員を決めており、担当職員が得たその人の日常の言葉や思いを「ケア報告書」に書き、センター方式の利用と共にケアに活かすよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスを導入する段階で、「生活歴」や「これまでの暮らし」を情報としてまとめ、把握したうえで支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の一日の過ごし方を様子観察し、記録にまとめ現状の把握に努めている。起床時にバイタルチェックを行い、変化に注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成には、本人や家族の要望や意見も取り入れ作成し、職員でモニタリングもを行い、月一回サービス担当者会議で意見を出し合い検討し現状に即したものになるように見直している。	入居時のアセスメントを綿密に行い、それを基に職員・家族の意見も入れて独自の介護計画書を作成している。月一回、2名の利用者についてサービス担当者会議を行い、その際にモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、日々の様子や支援の経過を記録し、申し送りを行い情報も共有している。月に一回のサービス担当者会議で、支援の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な受診の送迎や、遠方に家族がおられ対応しきれない場合は、家族に代わって本人に必要な日常用品やオムツ類の購入を支援している。		

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街のイベントが多く、よく参加している。海や神社も近くにあり散歩など行い、地域との交流で楽しく暮らしていけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、近くにある医療機関が二週間に一度の往診を行っている。必要に応じて、検査も行い適切な医療を受けられるよう支援している。	遠方のかかりつけ医以外ほとんどの入居者は今迄のかかりつけ医との関係を継続しており、事業所が受診支援している。希望により協力医による定期的な往診を受けることもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りにて日常の様子やバイタルの状況を伝えている。必要に応じ、主治医に報告や相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、医療機関の担当者が必要な情報を交わし、早期退院や安心して治療できるように努めている。治療に対する説明も受け、退院時にはケアの指導も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス導入する段階で、重度化や終末期について、可能な対応を説明している。状況に応じ、本人や家族との話し合いも行い、今後に向けてチームで方針を共有しながら、事業所で出来ることを支援として取り組んでいる。	入居時に終末期に事業所のできることを伝えられている。重度の入居者に、職員・家族の話し合いを基に終末期に向けた支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命の講習を受けている職員を中心に急変や事故発生時に備えて指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難順路や場所は、全職員が把握し、方法など消防員の指導を受けている。屋上は田辺市の指定避難所になっており、避難時は外部からの援助がみられる。	水害の場合は屋上に、火災の場合は非常階段、通常の階段、エレベーターを使う手筈になっている。グループ全体での避難訓練も事業所だけの訓練も実施されていない。	想定だけではなく、実際の避難訓練を行い、入居者の避難に備えることが必要とされる。

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の心理面での特性を捉え尊重し接している。職員が利用者が発する言葉は、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮しながら行っている。	意志疎通が難しく他の人との関係も持ちにくい入居者には、人格の尊重に気をつけながら穏やかに過ごしてもらうような取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者とのコミュニケーションを図り、本人の思いや訴えを受け入れ、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週間予定や、その日をどう過ごしたいかなど、事前に利用者から希望を聞き、予定を立て支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個人のペースに合わせて、行きつけの美容院に外出している。着る服は本人に選んでもらい、外出時には身だしなみやおしゃれにも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立をボードに記入し、楽しみの一つとして取り組んでいる。個人に合わせた器も用意し、利用者と職員と一緒に準備や盛り付けを行い、片付けも行っている。	食事は2階の厨房で調理したものを運び、キッチンで盛り付け・配膳をしている。準備や片づけを手伝う入居者もみられるが、食事は入居者だけで、職員は各テーブルを歩き来て必要な介助をしている。	食の楽しみを大切にするコミュニケーションを工夫し、能力を発揮できるような取り組みが望まれる。樹脂製のワンプレート皿や湯飲み等についても検討が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は記入し、一日を通じて必要分確保できるよう支援している。摂取状態の観察も行い、食事形態の見直しも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。自立した方には声かけで促し見守りなど行い、介助が必要な方には職員で口腔ケアを行っている。		

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて、個人の排泄パターンを把握し前誘導を行い、失禁予防に努めている。尿パッド使用者にもトイレでの排泄を促し、介助や支援を行っている。	入居者の様子を見ながら、排泄表を利用し、時間を見計らって誘導している。トイレ内のスペースは広く、入り口にドアはあるが、その先の個室はカーテンで仕切りられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中に個々に応じて、運動を意識した活動を取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。おやつにヨーグルトなど取り入れ工夫している。便秘時には、通じ薬を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に合わせて入浴している。主に午後入浴だが、本人のタイミングを図り、朝入浴も実施している。	週2、3回入浴できるよう支援しており、冬には足浴も実施している。浴室と脱衣場がカーテンで仕切られ、掃除用具や洗濯物が雑然と置かれているなど、入浴を楽しめる雰囲気欠ける面がみられる。	介護する側からの視点でなく、本人本位の視点を持って入浴を楽しめる浴室の雰囲気の工夫がほしい。男性職員が多いが、同性介助など、羞恥心や不安感に対する配慮も望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望で日中の臥床や静養を支援している。自室で休息し、照明の調整や、空調管理も行い、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時は、受診記録で申し送り、目的や副作用の確認をしている。服薬後のチェックも行い、服薬忘れも防いでいる。症状の変化にも注意し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計画書の作成時に、本人や職員の話合いで生活歴や力を活かした役割を探り、張り合いのある暮らしなど計画し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って、個別に外出も支援している。日常的な外出には職員が付き添い、墓参りなどは家人の協力を得て、本人の希望に対応している。月間外出行事も予定し、地域との交流も図っている。	日用品の買い物は職員と共に出かけている。職員のなかで月間の外出担当を決め、年間の計画を立てて、ドライブや買い物の支援をしている。	

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身にて金銭管理は出来ないため、事務所にて預かっている。個人の買い物の際、会計時に本人に預かり金を渡し、お金の支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があればとりついたり、自身で電話をかけたい時などは支援している。頻繁に電話の希望される利用者に対しては、家族と相談し内線にて職員が家族役をし、安心や納得していただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏は七夕の飾り付けをしたり、秋は鈴虫を飼い泣き声を楽しんでいただいたり、季節を感じていただけるような工夫をしている。また屋上には、四季の花々を育てており、見頃になると共用空間に飾り付けしている。	居室から出ればすぐに広々とした共用空間が広がり、全て見渡せるフロアの中央でテレビに向けて一列にソファを配置して入居者の団らんの場としている。トイレや浴室は機能重視の構造となっている。	入居者主体の暮らし方に目を向け、より居心地の良い共用空間づくりへの検討が望まれる。飾り付けや、居室の名前の表示など、潤いのある生活空間になる工夫を期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、円テーブルやソファなどを利用し気の合う利用者同士で過ごせるように配慮している。独りで過ごされたい利用者には、畳のスペースを設け、くつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い馴れた家具や馴染みの衣類などを持参してもらっている。人によっては仏壇を居室に置き、毎朝お供えのご飯を本人に換えていただく支援をしたり、家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせるよう工夫している。	各ベッドと収納スペースが備えつけられている。個々の入居者の生活感はやや薄いのが、敷物やたたみを敷いた居室もあり、仏壇を持ち込んでいる人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、各居室の出入り口には手すりが設置されており、歩行不安定な利用者には安全に移動できるよう工夫している。		